

しゅりょう さいしゅう のうこう
▼狩猟・採集と農耕

ひと々は野山の動物や木の実、海や川の魚、貝などを手に入れて生活していた(狩猟・採集)。

時代が進むにつれて定住生活が始まり、穀物などの農耕が行われるようになった。



弥生時代にあった邪馬台国というくにの女王。

239年、当時の中国につかいを送って「親魏倭王」の称号を得たことが、歴史書『魏志倭人伝』に記されている。



こふん しゅつげん
◀古墳の出現

くにの王や豪族は、小高い丘のような墓(古墳)を作るようになった。

古墳は、王や豪族が多くの人を働かせることのできる大きな力を示すものとなり、大和地方(奈良)を中心に全国に作られた。

日本最大の古墳である大仙古墳は、全長486mもある前方後円墳となっている。



やまとうけん
◀ヤマト王権

大和地方の王を中心に、各地の豪族がまとめた政府(大和朝廷)が作られていった。

その中心の王は大王(おおきみ)と呼ばれ、5~6世紀ごろには、九州地方から東北地方南部までの豪族や王を従えるようになった。

きゅうせっきじだい
旧石器時代

- 狩猟と採集を中心にした生活
- 特定の場所には住まず、移動生活を行った。
- 打製石器を使った。
- 火の使用が始まった。

じょうもんじだい
縄文時代

- 狩猟と採集を中心にした生活
- 穀物などの農耕が徐々に始まった。
- むらが作られ、たて穴住居に住んだ。
- 縄文土器が作られた。

やよいじだい
弥生時代

- 農耕の中でも米づくりが盛んになり、定住生活を送った。
- 鉄の道具が使われ始めた。
- むらとむらの間で争いが起こるようになった。
- むらの指導者となった豪族の中には、まわりのむらを従えてくにつくる王もあらわれた。

きげんぜん 1まん 4000ねん ごろ
紀元前1万4000年ごろ

きげんぜん 400ねん ごろ
紀元前400年ごろ

3せいぎ ごろ
3世紀ごろ

きゅうせっきじだい
旧石器時代

じょうもんじだい
縄文時代

やよいじだい
弥生時代

こふんじだい
古墳時代



2 飛鳥時代の政治



おば
天皇
おい
摂政



聖徳太子

推古天皇の政治をたずける摂政として天皇中心の国づくりにあつた。

冠位十二階や十七条の憲法を制定し、日本の政治制度を整えた。

また、仏教をあつく保護し、法隆寺などを建てて教えを人々に広めようとした。



中大兄皇子

大化の改新で天皇中心の国づくりを行った。のちの天智天皇。

兄

弟

天武天皇

兄の中大兄皇子の死後、壬申の乱に勝利した。法律にもとづいた天皇中心の国づくりをさらに進めた。



推古天皇

日本初の女性天皇。

おいの聖徳太子や、有力な豪族の蘇我氏とともに政治を行った。

遣隋使派遣

進んだ制度や文化を取り入れるため、小野妹子らを遣隋使として隋(当時の中国)に送った。

隋がほろび、唐がおこった後も、遣唐使として200年以上の間使者が送られ続けた。

大化の改新

645年、天皇をしのぐ力を持っていた蘇我氏をたおした中大兄皇子と中臣鎌足は、天皇中心の国づくりを始めた。

○全ての土地と人々は天皇のものであるとした制度(公地公民)が定められた。

○戸籍をもとに人々に土地を貸しあてえ、農業を行わせる法律(班田収授法)が定められた。



中臣鎌足

中大兄皇子に協力し、蘇我氏をほろぼした。代々権力をもった藤原氏の祖。



仏教伝来

朝鮮半島からやってきた渡来人が、日本に漢字や仏教を伝えた。

仏教は538年、百濟(朝鮮半島)から伝えられた。



小野妹子

聖徳太子に命じられ、使者として隋の煬帝に国書を届けた。



607

645

飛鳥時代

③ 奈良時代と仏教



しょうむてんのう 聖武天皇

病気や災害で人々が苦しむ中、**仏教**の力で国を安定させようとした。

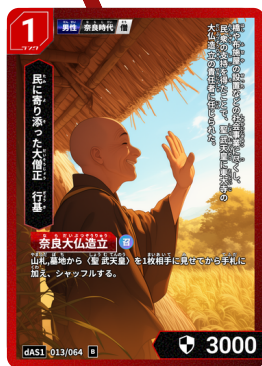
741年、全国各地に**国分寺**を建てることを命じた。都には国分寺の中心となる**東大寺**が建てられた。

743年、**大仏**をつくることを命じた。



だいぶつぞうりゅう 大仏造立

全国から人や物資を集め、752年に完成した大仏は、全国の**国分寺**の中心である**東大寺**に置かれた。



ぎょうき 行基

人々のために橋や水路をつくりながら**仏教**を広め、したわれた。

大仏づくりの責任者となり、人々に力を合わせて大仏をつくることを呼びかけた。



かんじん 鑑真

唐のすぐれた僧で、正しい**仏教**の教えを日本に広めるため、**聖武天皇**に招かれた。

日本への渡航に何回も失敗し、両目の視力を失ってしまったが、あきらめず、6回目に渡航に成功した。

日本に着くと、僧たちが学ぶための**唐招提寺**を創建した。

けんどうし 遣唐使

政治のしくみや大陸の文化を学ぶため、唐に使者が送られた(**遣唐使**)。

東大寺にある**正倉院**の宝物の中には、西アジアやインドからもたらされたものもある。

中国や朝鮮半島からも、すぐれた学者や技術者が日本にやってきた。

大陸との交流によって、日本では、**中国風**の文化がさかんになった。

へいひょうきやう 平城京

藤原京にかわり、710年、奈良に新しい都(**平城京**)がつけられた。

都には**天皇**をはじめ、**貴族**や**役人**が暮らし、にぎわいをみせたが、地方の人々の負担は大きく、くらしは厳しかった。

710

あすかじだい 奈良時代

752

759

4 平安時代の貴族のくらし

平安京

平城京にかわり、794年に平安京がつけられた。

朝廷の政治を一部の有力な貴族が動かすようになり、その中でも中臣鎌足の子孫(藤原氏)が大きな力をもった。

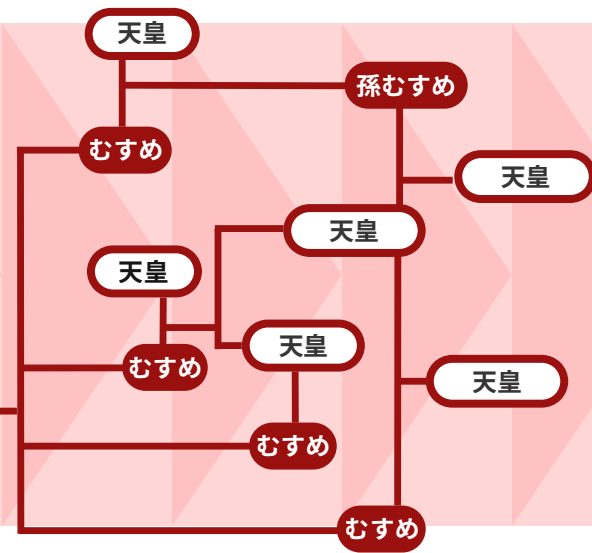
平安時代の貴族生活

貴族たちは広い庭や池がある寝殿造のやしきでくらすようになった。

中国との交流により、大陸風の文化がさかんだったが、894年に遣唐使が停止されると、日本風の文化(国風文化)が発展した。

藤原道長
むすめを天皇のきさきにし、天皇とのつながりを強くして大きな力をもった。天皇をたすける摂政・関白として、政治を行った(摂関政治)。

道長とその息子・頼通のころに藤原氏の権力をもっとも強くなった。



清少納言

見聞きしたことや心にうかんだことを自由に書いた『枕草子』を発表した。



国風文化

- かな文字が使われはじめ、和歌や文学の名作ができた。
- 現在まで続く、お正月の行事や七夕などの年中行事ができた。



794

奈良時代

894

平安時代

1002

1008

紫式部
天皇のきさきだった藤原道長のむすめに教育係として仕え、『源氏物語』を書いた。

⑤ 武士の成長と鎌倉幕府

平氏

武士の出現と成長

田畑を広げた地方の農民や、地方に派遣された役人たちの中から、自分の領地や富を守るために武芸を身につけた武士が現れた。

朝廷や貴族に仕え、力をつけていった武士は武士団をつくった。なかでも、天皇を祖先とする源氏と平氏の力が強くなった。

源氏

源義経

源頼朝の弟として、源氏の軍を率いた。一ノ谷・屋島などでの戦いで平氏を西へと追いつめ、壇ノ浦(山口県)でほろぼした。
頼朝の許可を得ずに朝廷から位をもらったことで頼朝と対立し追われるようになり、1189年、東北で自害した。

平清盛

1156年の保元の乱と1159年の平治の乱で源氏をおさえ、武士として初の太政大臣となって権力をにぎった。

宋(中国)との日宋貿易を重視し、今の神戸港のもとになった港を中心に大きな利益をあげた。

政治を思うままに動かす平氏に対し、しだいに貴族やほかの武士たちの間で不満が高まっていった。

源平の戦い

源氏は東日本、平氏は西日本に勢力をのびた。朝廷や貴族の争いにもかかわるようになり、たがいに入り乱れて戦った(保元の乱、平治の乱)

平治の乱で敗れた源氏は、1180年、源頼朝を中心として兵をあげ、ついに平氏をほろぼした。

鎌倉幕府の始まり

源頼朝は、家来になった武士(御家人)に領地の所有を認めた。

このような頼朝の「ご恩」に対して、武士たちは幕府のために戦う「奉公」をちかった(ご恩と奉公の関係)。



1156

1180

1185

1192

平安時代

鎌倉時代

⑥ 鎌倉時代から室町時代へ



北条時宗

鎌倉幕府の源氏の将軍は3代で絶え、将軍を助ける執権の職についていた北条氏が政治を行うようになった。

第8代執権の北条時宗は、日本を従えようとする元の要求を退け、戦いにのぞんだ。

元寇と武士たちの不満

要求を退ける

1274年、1281年の2回にわたり、元の大軍が九州北部にあらわれた(元寇)。

武士たちは領地などの恩賞を得るために必死に戦い、元軍は大きな損害を受けて引きあげた。

幕府は武士たちに新しい領地をあたえられず、武士たちは鎌倉幕府に対する不満をもつようになった。

従うことを要求する

フビライ=ハン

モンゴルはアジアからヨーロッパにまたがる帝国を築き、中国に元という国をつくった。

元の皇帝のフビライ=ハンは、日本を従えようと使者を送り、要求を退けた日本を大軍でせめた。



1274

1281

鎌倉時代

室町幕府

14世紀中ごろ、武士たちの不満から鎌倉幕府がたおれると、足利氏が京都に新しく室町幕府を開いた。

室町幕府3代将軍



足利義満

明との貿易(勘合貿易)を行った。

南朝と北朝に分かれていた朝廷の争いを終わらせるなど、室町幕府の力が最も強い時代を築いた。

北山文化

貴族のえいきょうを受けたはなやかな文化。
能・狂言

金閣と銀閣

足利義満が建てた金閣は北山文化を、足利義政が建てた銀閣は東山文化を、それぞれ代表する建物となった。



1392

室町時代

室町幕府8代将軍



足利義政

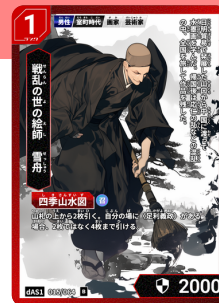
足利義政のあとつぎをめぐって守護大名が対立し、応仁の乱がおきた。

東山文化

武士中心の、深みのある文化。
水墨画・書院造

雪舟

中国で水墨画を学び、日本各地をめぐって作品を残した。



1467

7 戦国時代と天下統一

織田信長

桶狭間の戦いで大軍の今川氏をたおし、武力による天下統一に向け動き出した。

豊富な資金や大量の鉄砲を手に入れると、足利氏を京から追放して室町幕府をほろぼし、また、長條の戦いなどで有力な大名に勝利して勢力を広げた。

安土に大きな城を築き、城下町では自由な商売を許可して(楽市・楽座)、商業や工業をさかんにした。

しかし、天下統一の途中の1582年に本能寺で家来の明智光秀におそわれ、自害した。



豊臣秀吉

身分が低かったが、織田信長に仕え、有力な武将となった。信長にそむいた明智光秀をたおし、やがて関白として天下統一をなしとげた。



徳川家康

織田信長や豊臣秀吉に協力して、関東の有力な大名となった。

秀吉の死後、多くの大名を味方につけると、1600年、関ヶ原の戦いで石田三成などの自分に反対する大名を破り、支配を全国に広げた。

戦いに利用



鉄砲の伝来

1543年、ポルトガル船から種子島に鉄砲が伝わった。1年後には国内で生産され、日本の戦いを大きく変えた。

保護



太閤検地と刀狩

大阪に城を築いて全国を支配した秀吉は、太閤検地と刀狩を行った。

- 太閤検地
田畑の広さや収かく量を調べ、収入を確かなものにした。
- 刀狩
百姓から武器を取りあげて、反抗できないようにした。

キリスト教の伝来



1549年、イエズス会のフランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸し、日本にキリスト教を伝えた。

ザビエル



江戸幕府の始まり

1603年、徳川家康は征夷大将軍に就任し、江戸に幕府を開いた。

1543

1549

1582

1590

1600

室町時代

安土桃山時代

江戸時代

8 江戸時代の始まり

江戸幕府初代将軍

とくがわいえやす
▼徳川家康



1603年、征夷大将軍に就任し、江戸に幕府を開いた(江戸幕府)。1615年、大坂の陣で豊臣氏をほろぼした。

朱印船貿易を許可してさかんにし、東南アジア各地に日本町ができた。



江戸幕府の始まり

各地に親藩・譜代・外様などの大名を配置した。各大名の領地・組織は藩とよばれた。

鎖国とキリスト教の禁止

キリスト教を警戒した江戸幕府は、キリスト教を禁止し信者たちを取りしまった。キリスト教の信者を中心に島原・天草一揆が起き、これが決め手となって、キリスト教を広める恐れのないオランダや中国を除き、来航が禁じられた(鎖国)。

1603

戦国時代

江戸時代

3代将軍

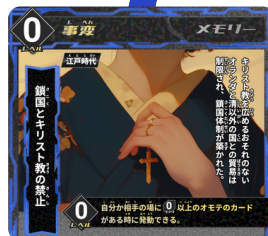
とくがわいえみつ
▼徳川家光



江戸幕府の組織を細かく整え、幕府のしくみを確立した。1635年、参勤交代を定め、幕府が藩を支配する幕藩体制を強化した。

島原・天草一揆に対し、大軍を送っておさえた。

1637年、鎖国が始まり、以降の貿易は江戸幕府だけが行うこととなった。



参勤交代

大名の妻子を江戸に住ませ、大名が1年おきに江戸と領地を往復する制度。

鎖国下の外国との関係

- オランダや中国との貿易は、長崎に限り行われた。
- 朝鮮との外交は対馬藩を通じて行われ、朝鮮通信使が江戸をおとずれた。
- 琉球(沖縄)は薩摩藩に征服されたが、独自に中国との貿易を続けた。
- 蝦夷地(北海道)ではアイヌの人々と交易が行われたが、交易の内容をめぐる争いになることもあった。

1635

9 江戸時代の文化

江戸幕府8代将軍

ちかまつもんざえもん ▼近松門左衛門

『国性爺合戦』『曾根崎心中』などの、歌舞伎や人形浄瑠璃の脚本を書いた。



けんろくぶんか 元禄文化

社会の安定により、経済力をつけた大阪・京都中心の元禄文化が発展した。



かぶき うきよえ ▲歌舞伎と浮世絵

平和が続く、武士以外の人々の中にも文化や学問に親しむ人があらわれた。

こくがく らんがく 国学と蘭学▶

- 本居宣長などによって、日本の古典について研究が進んだ(国学)。
- ヨーロッパの新しい知識や技術を学び、杉田玄白や伊能忠敬が活躍した(蘭学)。

1688

江戸時代

とくかわよしむね ▼徳川吉宗

幕府の財政を立てなおすため、享保の改革を行った。

きょうほうのかいかく 享保の改革

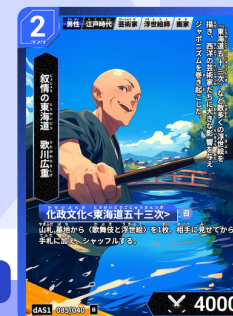
- 新田開発・上米の制で米の収入を増やした。
- 公事方御定書を制定した。
- 目安箱を設置した。



6000

うたがわひろしげ ▼歌川広重

『東海道五十三次』などをえがき、浮世絵を発展させた。



かせいぶんか 化政文化

大都市となった江戸が中心の化政文化が発展した。

もとおりのりなが ▼本居宣長

古事記について研究し、国学を成立させた。

こくがく らんがく 国学と蘭学



2000



すぎたげんぱく ▲杉田玄白

オランダ語の医学書を訳し、『解体新書』として出版した。

いのうただたか ▼伊能忠敬

人力での測量で、正確な日本地図を完成させた。



5000

1716

1830

10

開国と江戸時代の終わり



ペリー

1853年、アメリカの使者ペリーが軍艦を率いて現れ、開国を求めた。幕府は翌年に日米和親条約を結んで下田・函館を開港し、鎖国の状態が終わった。



黒船来航

日本の開国



多くの国々と条約を結んで貿易が始まったが、それらの条約は日本に不利なものだった(不平等条約)。薩摩藩や長州藩は開国に反対し、外国と戦うこととなった。

木戸孝允



長州藩

長州藩

薩長同盟

外国との戦いで力の差を知った薩摩藩・長州藩は、同盟を結び新政府をつくる運動を始めた。

薩摩藩



大久保利通



西郷隆盛

江戸幕府15代将軍



徳川慶喜

1867年、新政府をつくる運動におされ、政権を天皇に返した(大政奉還)。

勝海舟

西郷隆盛と話し合い、戦わずに江戸城開城を実現させた幕府の役人。



会談

明治天皇



五箇条の御誓文

1868年、明治天皇の名で政治の方針が定められ、新しい時代が始まった。

政権を返す

1853

江戸時代

1868

明治時代



メモ

11 明治時代の新しい政治

木戸孝允



大久保利通



明治新政府

政府の中心となった木戸孝允・大久保利通らは、**廃藩置県**や**富国強兵**に力を入れた。



廃藩置県

1871年に全国の藩を廃止して新たに県や府を置き、政府の役人に治めさせた。



富国強兵と文明開化

政府は工業をさかんにし、強い軍隊を持つことを目指した(富国強兵)。



西洋風の文化や技術が取り入れられ(文明開化)、福沢諭吉らによって新しい時代の学問や教育が広まった。

福沢諭吉

明治天皇



初代内閣総理大臣



伊藤博文

明治天皇から内閣総理大臣に任命され、**憲法**の作成の中心となった。

西郷隆盛・板垣退助・大隈重信らは、意見のちがいなどから政府を去った。



西郷隆盛

不満をもつ元武士たちの反乱(西南戦争)を指揮し、政府の軍隊によってしずめられた。



板垣退助

国会を開いて国民の意見を聞くことを求める**自由民権運動**を主導した。



大隈重信

大日本帝国憲法の公布

1889年、明治天皇が国民にあたる形で公布された。この憲法では、国を治める**主権**は天皇のものだった。

国会の開設



国会は貴族院と衆議院からなり、衆議院議員は国民の選挙で選ばれた。しかし、選挙権をもつのは国民の約1%だった。

のちに板垣や大隈が結成した政党から多くの議員が選ばれ、1898年、大隈を総理とする最初の**政党内閣**が組織された。

1871
明治時代

1877

1889

1890

12 世界の中の日本へ

▼陸奥宗光

1894年、イギリスとの交渉で領事裁判権をなくすことに成功した。



領事裁判権

不平等条約で外国に認められていた、日本国内での外国人の犯罪をその外国人の国の法律でさばく権利。



▼不平等条約改正

近代的な国づくりを進めた日本は、1894年に領事裁判権をなくすこと、1911年に関税自主権を回復することに成功した。

▼(日本の開国)

江戸時代、日本が開国した時に外国と結んだ条約は日本に不利な不平等条約だった。

1894

明治時代

日清戦争・日露戦争

勢力をのばそうとした日本は清やロシアと対立し、1894年に日清戦争、1904年に日露戦争がおきた。勝利した日本は台湾や朝鮮を勢力のもとに置いた。



東郷平八郎

無敵と言われたロシア艦隊を日本海での戦いで破った。



与謝野晶子

日露戦争で戦場に向かった弟を思い、戦争に反対する詩を発表した。

社会の変化

日本の科学者による研究が国際的に認められるようになった。また、人々の民主主義への意識が高まり、社会的な権利を主張する動きが広まった。

1904

▼小村寿太郎

1911年、関税自主権の回復に成功し、不平等条約は完全に改正された。



関税自主権

不平等条約で日本に認められていなかった、外国からの輸入品にかかる税金を自由に決める権利。

▼野口英世

病原体についての研究が世界に認められた。



▼平塚らいてう

女性の地位向上を目指して様々な権利をうったえた。

1911

大正時代

13 戦争から平和な日本へ

日中戦争



第二次世界大戦

1939年、ヨーロッパではドイツやイタリアがまわりの国々を侵略し、これにイギリスやフランスが反対して**第二次世界大戦**がおこった。

日本はドイツ、イタリアと同盟を結んでアジアの地域を支配しようとした。反対したアメリカやイギリスと激しく争う**太平洋戦争**になり、多くの人々がなくなった。

広島・長崎への原爆投下をうけ、1945年8月15日に降伏した日本はアメリカなどの連合国軍に占領された。

1931年、日本は中国を攻撃して満州(中国東北部)を占領し、満州国として独立させようとした(**満州事変**)。

国際連盟はこれを認めず、日本は国際連盟を脱退して国際的に孤立することとなった。

1937年、日本と中国が衝突し、全面的な**日中戦争**となった。

1931

昭和時代



日本国憲法の制定

1946年11月3日に公布され、翌年5月3日に施行された、大日本帝国憲法にかわる憲法。

国民主権・基本的人権の尊重・平和主義を三つの原則とする。

- 国民主権
- 人権は「生まれながらの権利」として保障される
- 国民の義務は
 - ・納税の義務
 - ・勤労の義務
 - ・教育を受けさせる義務



大日本帝国憲法

- 天皇主権
- 人権は法律で制限される
- 国民の義務は兵役・納税



1945

戦後の日本

- ・アメリカなどの連合国軍の指導下で、民主主義国家として再出発した。
- ・20歳以上の男女に平等に選挙権が保証された。
- ・小学校6年間、中学校3年間の9年間が義務教育になった。
- ・1951年に**サンフランシスコ平和条約**を結び、主権を回復したが、沖縄はアメリカに占領されたままだった。

1964

初のオリンピック・パラリンピック

1956年に**国際連合**に加盟し**国際社会**に復帰すると、日本は産業を急速に発展させた(**高度経済成長**)。

1964年にアジア初となる**東京オリンピック・パラリンピック**が開催され、日本の復興が世界に認められた。



▼狩猟・採集と農耕

人々は野山の動物や木の実、海や川の魚、貝などを手に入れて生活していた(狩猟・採集)。

時代が進むにつれて定住生活が始まり、穀物などの農耕が行われるようになった。



◀古墳の出現

くにの王や豪族は、小高い丘のような墓(古墳)を作るようになった。

古墳は、王や豪族が多くの人を働かせることのできる大きな力を示すものとなり、大和地方(奈良)を中心に全国に作られた。

日本最大の古墳である大仙古墳は、全長486mもある前方後円墳となっている。



◀ヤマト王権

大和地方の王を中心に、各地の豪族がまとめた政府(大和朝廷)がつけられていった。

その中心の王は(古墳時代の王)と呼ばれ、5~6世紀ごろには、九州地方から東北地方南部までの豪族や王を従えるようになった。

◀卑弥呼

弥生時代にあった(女王)というくにの女王。

239年、当時の中国につかいを送って「親魏倭王」の称号を得たことが、歴史書(後漢書)に記されている。

弥生時代

- 農耕の中でも米づくりが盛んになり、定住生活を送った。
- 鉄の道具が使われ始めた。
- むらとむらの間で争いが起こるようになった。
- むらの指導者となった豪族の中には、まわりのむらを従えてくにをつくる王もあらわれた。

縄文時代

- 狩猟と採集を中心にした生活
- 穀物などの農耕が徐々に始まった。
- むらが作られ、たて穴住居に住んだ。
- 縄文土器が作られた。

旧石器時代

- 狩猟と採集を中心にした生活
- 特定の場所には住まず、移動生活を行った。
- 打製石器を使った。
- 火の使用が始まった。

紀元前1万4000年ごろ

紀元前400年ごろ

3世紀ごろ

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

古墳時代

2 飛鳥時代の政治



おば
天皇



聖徳太子
推古天皇の政治をたすける()として天皇中心の国づくりにあたった。
()や()を制定し、日本の政治制度を整えた。
また、**仏教**をあつく保護し、**法隆寺**などを建てて教えを人々に広めようとした。



なかのおおえのおうじ
中大兄皇子
()を主導し、**天皇中心**の国づくりを行った。のちの()**天皇**。
兄 弟



天武天皇
兄の中大兄皇子の死後、()の乱に勝利した。法律にもとづいた**天皇中心**の国づくりをさらに進めた。



大化の改新

645年、天皇をしのぐ力を持っていた()氏をたおした中大兄皇子と中臣鎌足は、**天皇中心**の国づくりを始めた。
○全ての土地と人々は**天皇**のものであるとした制度(公地公民)が定められた。
○戸籍をもとに人々に土地を貸しあたえ、**農業**を行わせる法律(班田收授法)が定められた。



なかとみのかまたり
中臣鎌足
中大兄皇子に協力し、()氏をほろぼした。代々権力をもった()氏の祖。

推古天皇

日本初の女性天皇。
おいの聖徳太子や、有力な豪族の蘇我氏とともに政治を行った。

遣隋使派遣

進んだ制度や文化を取り入れるため、小野妹子らを遣隋使として隋(当時の中国)に送った。
隋がほろび、唐がおこった後も、遣唐使として200年以上の間使者が送られ続けた。



仏教伝来

朝鮮半島からやってきた渡来人が、日本に漢字や仏教を伝えた。
仏教は538年、百濟(朝鮮半島)から伝えられた。



小野妹子

聖徳太子に命じられ、使者として隋の煬帝に国書を届けた。



607

645

飛鳥時代

③ 奈良時代と仏教



しょうむてんのう 聖武天皇

びょうきやさいがい ひとびと くろく なか
病気や災害で人々が苦しむ中、()の力で国を
安定させようとした。

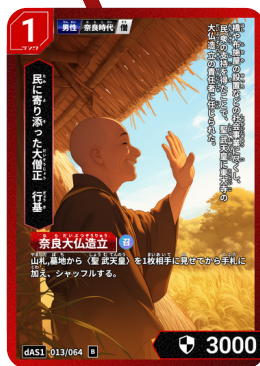
741年、全国各地に()を建てることを命じた。
都には()の中心となる(寺)が建てられた。

743年、大仏をつくることを命じた。



だいぶつぞうりゅう 大仏造立

ぜんこくから人や物資を集め、
752年に完成した大仏は、
全国の()の中心である
()に置かれた。



ぎょうき 行基

ひとびと
人々のために橋や水路をつ
くりながら仏教を広め、したわ
れた。

だいぶつ せきにんし
大仏づくりの責任者となり、
人々に力を合わせて大仏をつ
くることを呼びかけた。



かんじん 鑑真

とう
唐のすぐれた僧で、正しい仏教の教
えを日本に広めるため、聖武天皇に
招かれた。

こっぼん とうこう なんかい しっぺい りやうめ
日本への渡航に何回も失敗し、両目
の視力を失ってしまったが、あきら
めず、6回目に渡航に成功した。

こっぼん つつ そう
日本に着くと、僧たちが学ぶための
(寺)を創建した。

けんとうし 遣唐使

せいじのしくみや大陸の文化を学ぶため、
唐に使者が送られた(遣唐使)。

とうだいじにある()の宝物庫の中
には、西アジアやインドからもたらさ
れたものもある。

ちゆうごく ちゆうせんはんとう
中国や朝鮮半島からも、すぐれた学者
や技術者が日本にやってきた。

たいりく とのこうりゅう
大陸との交流によって、日本では、中
国風の文化がさかんになった。

へいひやうきやう 平城京

ふじからさきやう
藤原京にかわり、710年、奈良に
新しい都(平城京)が作られた。

みやこ てんのう
都には天皇をはじめ、貴族や役人
がくらし、にぎわいをみせたが、
ちほう ひとびと ふたん おお
地方の人々の負担は大きく、くら
しは厳しかった。

710

あすかじだい 飛鳥時代
ならじだい 奈良時代

752

759

4 平安時代の貴族のくらし

平安京

平城京にかわり、794年に平安京がつけられた。

朝廷の政治を一部の有力な貴族が動かすようになり、その中でも中臣鎌足の子孫（氏）が大きな力をもった。

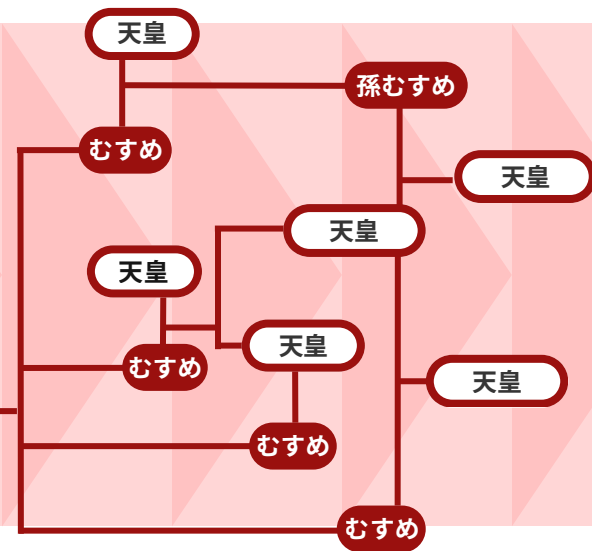
平安時代の貴族生活

貴族たちは広い庭や池がある（ ）というつくりのやしきでくらすようになった。

中国との交流により、大陸風の文化がさかんだったが、894年に遣唐使が停止されると、日本風の文化（文化）が発展した。

藤原道長
むすめを天皇のきさきにし、天皇とのつながりを強くして大きな力をもった。天皇をたすける摂政・関白として、政治を行った。（政治）

道長とその息子・頼通のころに藤原氏の権力はもっとも強くなった。



清少納言

見聞きしたことや心にうかんだことを自由に書いた、（ ）を発表した。



国風文化

- かな文字が使われはじめ、和歌や文学の名作ができた。
- 現在まで続く、お正月の行事や七夕などの年中行事ができた。



794

奈良時代

894

平安時代

1002

1008

紫式部

天皇のきさきだった藤原道長のむすめに教育係として仕え、（ ）を書いた。

⑤ 武士の成長と鎌倉幕府

平氏

武士の出現と成長

田畑を広げた地方の農民や、地方に派遣された役人たちの中から、自分の領地や富を守るために武芸を身につけた武士が現れた。

朝廷や貴族に仕え、力をつけていった武士は武士団をつくった。なかでも、天皇を祖先とする(氏と氏)の力が強くなった。

源氏

源義経

()の弟として、源氏の軍を率いた。一ノ谷・屋島などでの戦いで平氏を西へと追いつめ、() (山口県)でほろぼした。頼朝の許可を得ずに朝廷から位をもらったことで頼朝と対立し追われるようになり、1189年、東北で自害した。

平清盛



1156年の()の乱と1159年の()の乱で源氏をおさえ、武士として初の()となって権力をにぎった。

貿易面では(貿易)を重視し、今の神戸港のもとになった港を中心に大きな利益をあげた。

政治を思うままに動かす平氏に対し、しだいに貴族やほかの武士たちの間で不満が高まっていった。

源平の戦い



源氏は東日本、平氏は西日本に勢力をのびた。朝廷や貴族の争いにもかかわるようになり、たがいに入り乱れて戦った()の乱・()の乱。

()の乱で敗れた源氏は、1180年、源頼朝を中心として兵をあげ、ついに平氏をほろぼした。

鎌倉幕府の始まり



源頼朝は、() (家来になった武士)に領地の所有を認めた。

このような頼朝の()に対して、武士たちは幕府のために戦う()をちかった()との関係。

源頼朝



平治の乱に敗れ、伊豆に流されていたが、平氏への不満の高まりに応じて兵をあげた。

平氏をたおすと、1185年、対立していた義経をとらえる名目で各地に()・()を置いた。

これにより勢力をさらに広げ、1192年、武士のかしらとして()に任じられ、()を開いた。

1156

1180

1185

1192

平安時代

鎌倉時代

⑥ 鎌倉時代から室町時代へ



北条時宗

鎌倉幕府の源氏の将軍は3代で絶え、将軍を助ける()の職についていた()氏が政治を行うようになった。

第8代()の北条時宗は、日本を従えようとする()の要求を退け、戦いにのぞんだ。

元寇と武士たちの不満

1274年、1281年の2回にわたり、元の大軍が九州北部にあらわれた。これを()という。

武士たちは領地などの恩賞を得るために必死に戦い、元軍は大きな損害を受けて引きあげた。

幕府は武士たちに新しい領地をあたえられず、武士たちは鎌倉幕府に対する不満をもつようになった。

要求を退ける

従うことを要求する

フビライ=ハン

モンゴルはアジアからヨーロッパにまたがる帝国を築き、中国に()という国をつくった。

皇帝のフビライ=ハンは、日本を従えようと使者を送り、要求を退けた日本を大軍でせめた。



1274

1281

鎌倉時代

室町幕府

14世紀中ごろ、武士たちの不満から鎌倉幕府がたおれると、足利氏が京都に新しく()を開いた。

室町幕府3代将軍



足利義満

明と()貿易(日明貿易)を行った。

南朝と北朝に分かれていた朝廷の争いを終わらせるなど、室町幕府の力が最も強い時代を築いた。

北山文化

貴族のえいきょうを受けたはなやかな文化。
能・狂言

金閣と銀閣

足利義満が建てた()は北山文化を、
足利義政が建てた()は東山文化を、
それぞれ代表する建物となった。



1392

室町時代

室町幕府8代将軍



足利義政

足利義政のあとつぎをめぐる守護大名が対立し、()の乱がおきた。

東山文化

武士中心の、深みのある文化。
水墨画・書院造

雪舟

中国で()を学び、
日本各地をめぐる作品を残した。



1467

7 戦国時代と天下統一

織田信長

(桶狭間の戦い)で大軍の今川氏をたおし、武力による天下統一に向け動き出した。

豊富な資金や大量の鉄砲を手に入れると、足利氏を京から追放して(信長公認)をほろぼし、また、長篠の戦いなどで有力な大名に勝利して勢力を広げた。

安土に大きな城を築き、城下町では自由な商売を許可する(安土・金沢)を行い、商業や工業をさかんにした。

しかし、天下統一の途中の1582年に本能寺で家来の明智光秀におそわれ、自害した。



豊臣秀吉

身分が低かったが、織田信長に仕え、有力な武将となった。信長にそむいた明智光秀をたおし、やがて関白として天下統一をなしとげた。



徳川家康

織田信長や豊臣秀吉に協力して、関東の有力な大名となった。

秀吉の死後、多くの大名を味方につけると、1600年、(関原の戦い)で石田三成などの自分に反対する大名を破り、支配を全国に広げた。



江戸幕府の始まり

1603年、徳川家康は征夷大将軍に就任し、江戸に幕府を開いた。

戦いに利用

(信長公認)の伝来



1543年、ポルトガル船から種子島に(鉄砲)が伝わった。1年後には国内で生産され、日本の戦いを大きく変えた。

保護

(キリスト教)の伝来



1549年、イエズス会のフランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸し日本に(キリスト教)を伝えた。

ザビエル

1543

1549

1582

1590

1600

室町時代

安土桃山時代

江戸時代

8 江戸時代の始まり

江戸幕府初代将軍

とくがわいえやす
▼徳川家康



1603年、征夷大將軍に就任し、江戸に幕府を開いた(江戸幕府)。1615年、大坂の陣で豊臣氏をほろぼした。

朱印船貿易を許可してさかんにし、東南アジア各地に日本町ができた。

3代将軍

とくがわいえみつ
▼徳川家光



江戸幕府の組織を細かく整え、幕府のしくみを確立した。1635年、大名に江戸と領地を行き来させる(参勤交代)を定め、幕府が藩を支配する幕藩体制を強化した。

島原・天草一揆に対し、大軍を送っておさえた。1637年、(鎖国)が始まり、以降の貿易は江戸幕府だけが行うこととなった。



江戸幕府の始まり

各地に親藩・譜代・外様などの大名を配置した。各大名の領地・組織は藩とよばれた。



鎖国とキリスト教の禁止

キリスト教を警戒した江戸幕府は、キリスト教を禁止し信者たちを取りしまった。キリスト教の信者を中心に島原・天草一揆が起き、これが決め手となって、キリスト教を広める恐れのない(鎖国)を除き、来航が禁じられた(鎖国)。



参勤交代

大名の妻子を江戸に住ませ、大名が1年おきに江戸と領地を往復する制度。

鎖国下の外国との関係

- オランダや中国との貿易は、長崎に限り行われた。
- 朝鮮との外交は対馬藩を通じて行われ、朝鮮通信使が江戸をおとずれた。
- 琉球(沖縄)は薩摩藩に征服されたが、独自に中国との貿易を続けた。
- 蝦夷地(北海道)ではアイヌの人々と交易が行われたが、交易の内容をめぐる争いになることもあった。

1603

戦国時代

1635

江戸時代

9 江戸時代の文化

江戸幕府8代将軍

ちかまつもんざえもん ▼近松門左衛門

『国性爺合戦』『曾根崎心中』などの、歌舞伎や()の脚本を書いた。



けんろくぶんか 元禄文化

社会の安定により、経済力をつけた大阪・京都中心の元禄文化が発展した。



かぶき うきよえ ▲歌舞伎と浮世絵

平和が続く、武士以外の人々の中にも文化や学問に親しむ人があらわれた。

こくがく らんがく 国学と蘭学▶

- 本居宣長などによって、日本の古典について研究が進んだ(国学)。
- ヨーロッパの新しい知識や技術を学び、杉田玄白や伊能忠敬が活躍した(蘭学)。

とくかわよしむね ▼徳川吉宗

幕府の財政を立てなおすため、享保の改革を行った。

きょうほのきかひ 享保の改革

- 新田開発や()で米の収入を増やした。
- ()を制定した。
- ()を設置した。



うたがわひろしげ ▼歌川広重

()などの作品をえがき、浮世絵を発展させた。



かせいぶんか 化政文化

大都市となった江戸が中心の化政文化が発展した。

もとおりのりなが ▼本居宣長

古事記について研究し、()を成立させた。

こくがく らんがく 国学と蘭学



すぎたげんぱく ▲杉田玄白

オランダ語の医学書を訳し、()として出版した。

いのうただたか ▼伊能忠敬

人力での測量で、正確な日本地図を完成させた。



1688

1716

1830

江戸時代

10

開国と江戸時代の終わり



ペリー

1853年、アメリカの使者ペリーが軍艦を率いて現れ、開国を求めた。幕府は翌年に()を結んで()を開港し、鎖国の状態が終わった。



黒船来航

日本の開国



多くの国々と条約を結んで貿易が始まったが、それらの条約は日本に不利なものだった(不平等条約)。薩摩藩や長州藩は開国に反対し、外国と戦うこととなった。

1853
江戸時代

木戸孝允



薩長同盟

外国との戦いで力の差を知った薩摩藩・長州藩は、同盟を結び新政府をつくる運動を始めた。



大久保利通



西郷隆盛

江戸幕府15代将軍



徳川慶喜

1867年、新政府をつくる運動におされ、政権を天皇に返す()を行った。

政権を返す

勝海舟

()と話し合い、戦わずに江戸城開城を実現させた幕府の役人。

会談



明治天皇



五箇条の御誓文

1868年、明治天皇の名で政治の方針が定められ、新しい時代が始まった。



1868
明治時代

11 明治時代の新しい政治

きどたかよし
▼木戸孝允



おおくぼとしみち
▼大久保利通



明治新政府

政府の中心となった木戸孝允・大久保利通らは、**廃藩置県**や**富国強兵**に力を入れた。



▲廃藩置県

1871年に全国の藩を廃止して新たに県や府を置き、政府の役人に治めさせた。

▲富国強兵と文明開化

政府は工業をさかんにし、強い軍隊を持つことを目指した**(富国強兵)**。

西洋風の文化や技術が取り入れられ**(文明開化)**、福沢諭吉らによって新しい時代の学問や教育が広まった。

▲福沢諭吉



めいじてんのう
▼明治天皇



しよだいに
初代 ()



▲伊藤博文

明治天皇から初代 () に任命され、() の作成の中心となった。

西郷隆盛・板垣退助・大隈重信らは、意見のちがいなどから政府を去った。



▲西郷隆盛

不満をもつ元武士たちの反乱である () を指揮したが、政府によってしずめられた。



▲板垣退助

() を開いて国民の意見を聞くことを求める () を主導した。



▲大隈重信

▲大日本帝国憲法の発布

1889年、明治天皇が国民にあたる形で発布された。この憲法では、国を治める**主権**は () のものだった。

▼国会の開設



国会は () と () からなり、衆議院議員は国民の選挙で選ばれた。しかし、選挙権をもつのは国民の約1%だった。

のちに板垣や大隈が結成した政党から多くの議員が選ばれ、1898年、大隈を総理とする最初の政党内閣が組織された。

1871
明治時代

1877

1889

1890

12 世界の中の日本へ

▼陸奥宗光

1894年、イギリスとの交渉で () をなくすことに成功した。



()

不平等条約で外国に認められていた、日本国内での外国人の犯罪をその外国人の国の法律でさばく権利。



▼不平等条約改正

近代的な国づくりを進めた日本は、1894年に () をなくすこと、1911年に () を回復することに成功した。



▼(日本の開国)

江戸時代、日本が開国した時に外国と結んだ条約は日本に不利な不平等条約だった。

1894

明治時代

日清戦争・日露戦争

勢力をのぼそうとした日本は清やロシアと対立し、1894年に ()、1904年に () がおきた。勝利した日本は台湾や朝鮮を勢力のもとに置いた。



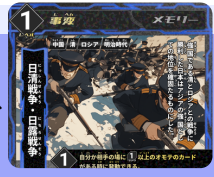
▼東郷平八郎

無敵と言われたロシア艦隊を日本海での戦いで破った。



▼与謝野晶子

日露戦争で戦場に向かった弟を思い、戦争に反対する詩を発表した。



▼小村寿太郎

1911年、() の回復に成功し、不平等条約は完全に改正された。



()

不平等条約で日本に認められていなかった、外国からの輸入品にかかる税金を自由に決める権利。

▼野口英世

病原体についての研究が世界に認められた。



▼平塚らいてう

女性の地位向上を目指して様々な権利をうったえた。

1904

社会の変化

日本の科学者による研究が国際的に認められるようになった。また、人々の民主主義への意識が高まり、社会的な権利を主張する動きが広まった。

1911

大正時代



13 戦争から平和な日本へ

日中戦争



▲ () **大戦**
 1939年、ヨーロッパではドイツやイタリアがまわりの国々を侵略し、これにイギリスやフランスが反対して () **大戦** が起こった。

日本はドイツ、イタリアと同盟を結んでアジアの地域を支配しようとした。反対したアメリカやイギリスと激しく争う**太平洋戦争**になり、多くの人々がなくなった。

広島・長崎への原爆投下をうけ、1945年8月15日に降伏した日本はアメリカなどの連合国軍に占領された。

1931年、日本は中国を攻撃して満州(中国東北部)を占領し、満州国として独立させようとした(**満州事変**)。

国際連盟はこれを認めず、日本は国際連盟を脱退して国際的に孤立することとなった。

1937年、日本と中国が衝突し、全面的な () **戦争** となった。



- 国民主権
- 人権は「生まれながらの権利」として保障される
- 国民の義務は
 - ・納税の義務
 - ・勤労の義務
 - ・教育を受けさせる義務



▼(大日本帝国憲法)

- () 主権
- 人権は法律で制限される
- 国民の義務は兵役・納税



← () の制定

1946年11月3日に公布され、翌年5月3日に施行された、大日本帝国憲法にかわる憲法。

() ・ () ・ () を三つの原則とする。



▲初のオリンピック・パラリンピック

1956年に**国際連合**に加盟し**国際社会**に復帰すると、日本は産業を急速に発展させた(**高度経済成長**)。

1964年にアジア初となる () **オリンピック・パラリンピック**が開催され、日本の復興が世界に認められた。

戦後の日本

- アメリカなどの連合国軍の指導下で、民主主義国家として再出発した。
- 20歳以上の男女に平等に選挙権が保証された。
- 小学校6年間、中学校3年間の9年間が義務教育になった。
- 1951年に**サンフランシスコ平和条約**を結び、主権を回復したが、沖縄はアメリカに占領されたままだった。

1931

1945

1964

昭和時代